

テロ・事件研究会の活動

2009年4月16日(金)

特定非営利活動法人 **事業継続推進機構(BCAO)**

テロ・事件研究会

定義

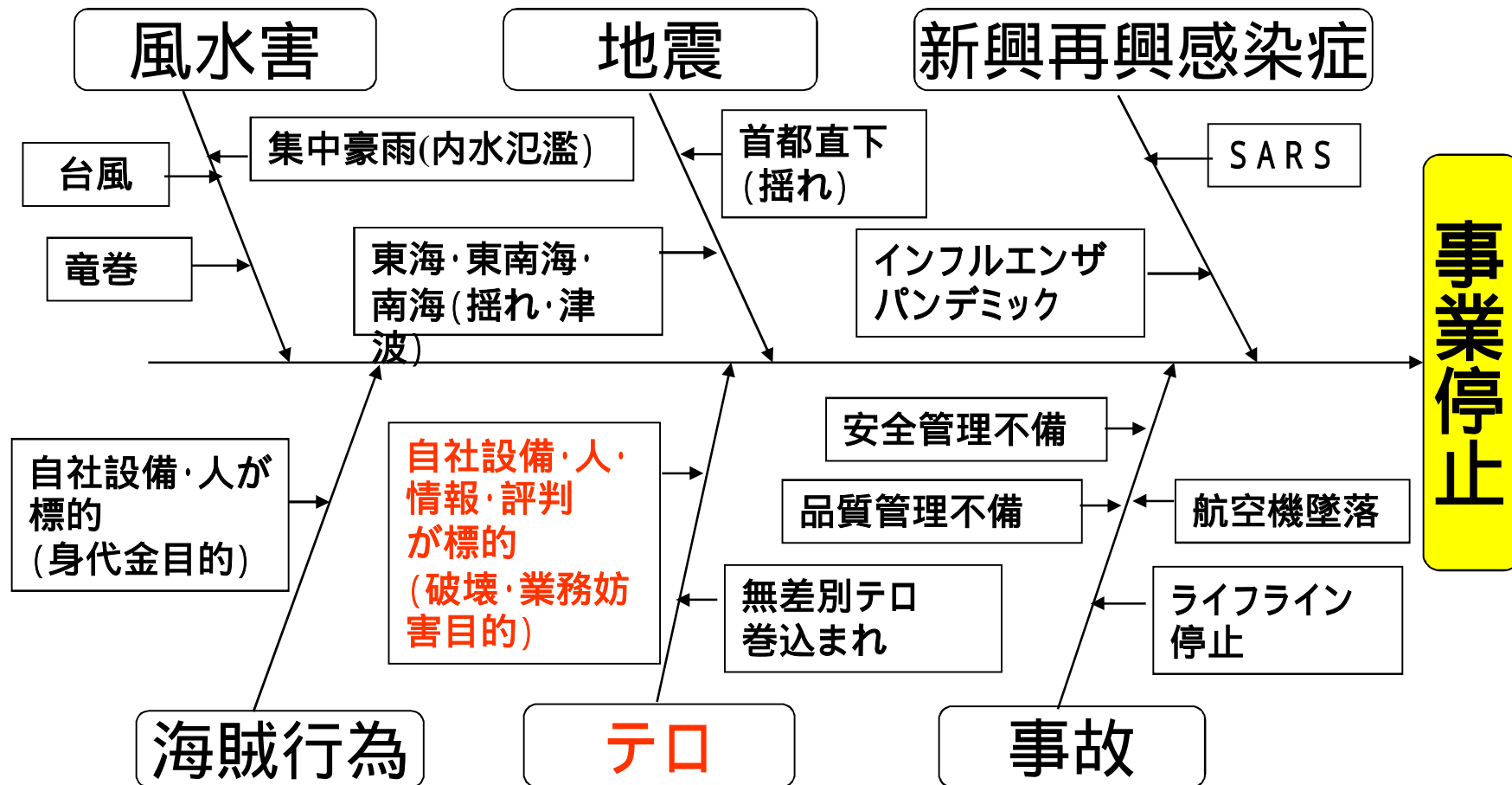
◆テロリズムとは（米国司法省の定義）

➤ 団体または個人が、
政府、一般市民等に恐怖を与え、威圧し、
政治的・社会的目標を遂げる目的で、
人や財産に対し違法な武力や暴力を行使すること

- **COMMUNITY EMERGENCY RESPONSE TEAM (CERT)**
Participant Manual
Unit 8 Terrorism and CERT より

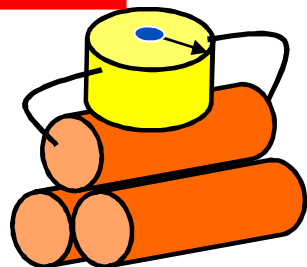
自社への脅威の種類

◆原因は何であれ事業・業務が止まる



「テロ・事件」特有のBCPは？

爆弾



爆発



放火



火災



不審者



盗難



建物・設備被害

人的被害

ライフライン被害

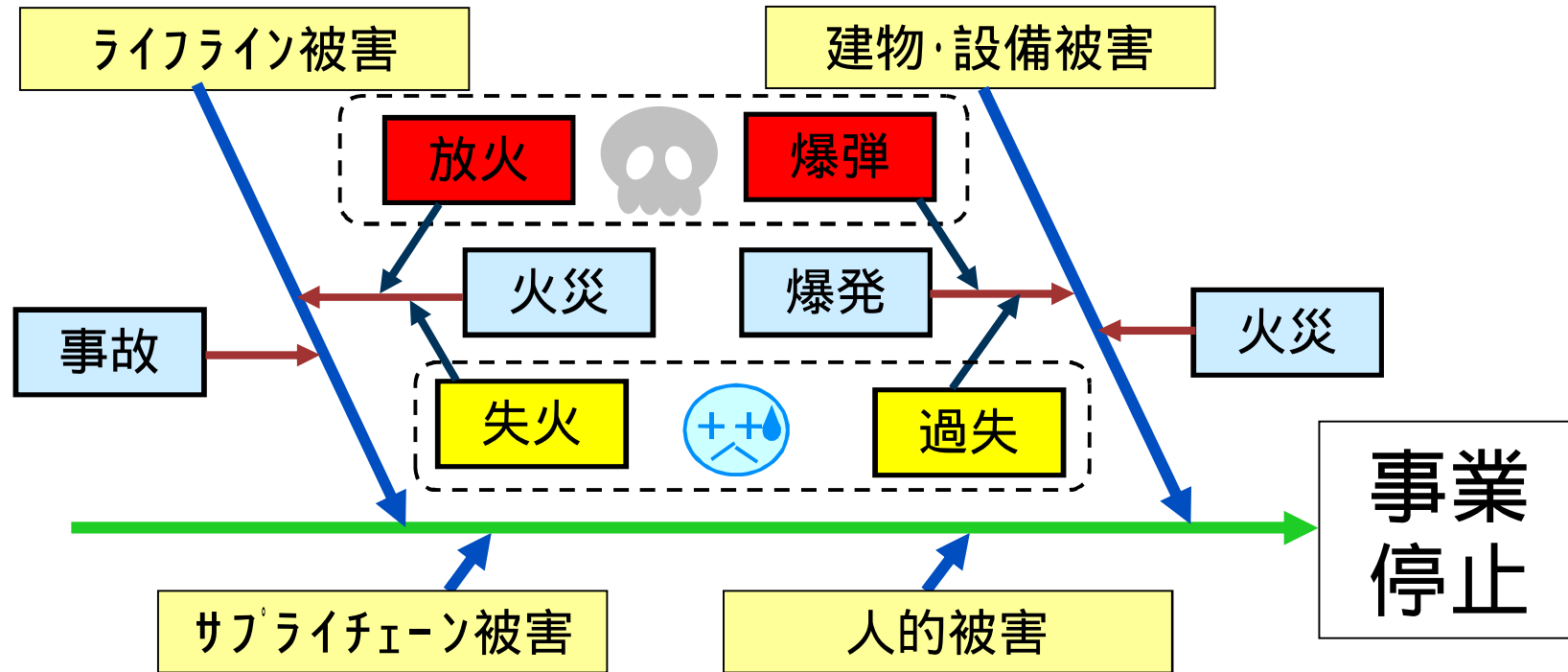
サプライチェーン被害

結果事象は同じ

Illustrated by 上倉画伯

テロ・事件を要因と捉える

◆ テロ行為や事件犯行を「要因」と捉える。



テロ・事件の要因には「悪意*」がある。

* やられる側の論理

テロ・事件対応は「悪意」との戦い

テロリスト



サポータージュ



無策



暴力団



悪質クレーマー

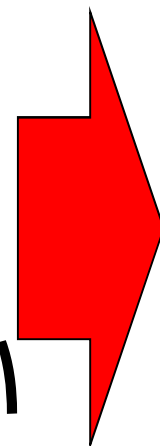


泥棒

Illustrated by 上倉画伯

平和な我国の課題

- 治安水準が高い
- 安定度の高い
- 組織依存度が高い



リスク感度が
鈍い国民性

さらに...

- ◆ リスク経験世代の引退
- ◆ リスク教育の不足
- ◆ リスクの変化

防災分野は

地震・台風・風水害...



- 被害発生は「稀」→減災措置有効
一定程度の範囲で発生予測可能
- 被災時は同情
- 対応は集団

組織の担い手もいる

Illustrated by 上倉画伯

本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

防犯分野は

テロや盗難事案は稀、しかし・・・



- 発生は「高頻度」
意志を持って攻撃してくる
- 発生時、世間は疑いの目
- 予防は性悪説
- 常在戦場(毎日対応)
- 対応は主として個人

担い手が乏しい

Illustrated by 上倉画伯

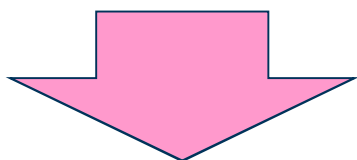
本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

悪意との戦いの難しさ・担い手育成

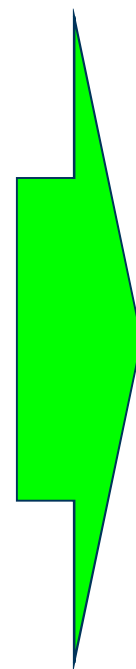
攻撃は継続的

エスカレート

個人標的の可能性



「火中の栗を拾う」難しさ



悪意と戦う
仕組みと人材

Illustrated by 上倉画伯

今後の課題

- 「悪意」に関するリスクの評価
- 対応に必要なノウハウの整理
- B C Mの一環としての対応策
- 人材育成「対応人材の要求仕様」

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
テロ・事件研究会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)